

図書館報

聖隷クリストファー大学

第4号

2006.3

- | | |
|--|---------------------------------|
| ・前任地での図書館長の経験から
(小川 恵子) …1 | ・図書館の中心で本が叫ぶ (宮谷 恵) …4 |
| ・ユニバーサル社会、情報化社会に
ふさわしい図書館を目指して
(林 玉子) …2 | ・専攻科最後の年を迎えるにあたって
(國分真佐代) …5 |
| ・本は買いなさい (大城 昌平) …3 | ・お薦めの一冊 (松井 謙次) …6 |
| | ・情報への誘い ……………7 |
| | ・貸出統計、教職員寄贈図書、編集後記 |

前任地での図書館長の経験から

リハビリテーション学部長 小川 恵子

前任地の大学で開学と同時に図書館長を仰せつかった。作業療法学科長と兼任であった。先ずぶつかった問題は「開館時間の延長」問題で学生が学長へ直訴することから始まった。この直訴は学生の無知から行ったもので、そんなことより学生自治会を通して言ってくるとか学生のアンケートをとってそれを持ってくるとかしなさいと言う指導から始めた。公立大学だったので、人員増は容易ではなく(私立でも同じかもしれない)、非常勤で何時間か延ばす程度がやっという状況で苦勞した。

次に苦勞したのは学生による本の無断持ち出しである。出入り口でベルが鳴って発見されるが、何度か同じ学生が行った場合は学生証のコピーをとり、それなりのペナルティーがあるわけだが、コピーをとることに抵抗する学生には図書館長が面接して話し合わねばならない。とても苦痛な役目だった。それが当大学の学生ではなく外部の方だと余計ややこしくなる。他人を疑うのは嫌いで、面接した学生と構内で出会うと目をそらしたくなった。

どんどん購読希望が出る新しい雑誌をどう整理するかも問題だった。古い雑誌とか読み手が少ない雑誌

は止めたいが、それをどうやって判断するか。書架に期間を決めて読んだら印をしてもらおうとかやってみたりした。少数の科目担当者は不利だとか癒やし系の雑誌もとるべきとか議論は尽きない。ここでも同じであろうか。

「図書館だより」を確か年に3回くらい出していたが、ここと違ってもう少し美しいものだった(すみません、事実です)。表紙の色を決めるという特権があつて嬉しかった。巻頭言を書かされたとき、まだ母が市立図書館に行つては本を借りてきて読むという、私より余程沢山本を読んでいることを書いた記憶がある。その母も今は89歳でもう読む気力がなくなったそうだ。老人ホームを訪ねるたびに書店の袋の封を切っていない週刊誌を「じゃもらっていくね」と言つて帰りの電車の中で読みながら帰ってくるようになってしまった。あの頃のことを思いだしてはため息をついている。

つい最近、久しぶりに専門書を編著して発刊した。この編集にはずいぶん苦勞した。分担執筆であつたが、シリーズ監修者が厳しくて、なかなかOKが出ず、何度書き直してもらつたことか。自分の書いた部分も

切り貼りし、ペアで書いた人との分担がわからなくなるほどであった。他人の編著は何気なく読んでいたが、こういう苦勞もあることを今度は読者になった時に察して読まねばと思っている。

小さいときは少女小説(若い人にはなじみない言葉かな?)を読みふけて、目を悪くしてしまったと親

に言われたが、今では読もう読もう読まねばと思いつながら積みあげる本が日増しに増え、自分を責める(嘆く?)毎日である。若者よ!今のうちにもっともつと本を読みたまえ!そしていずれは自分が書く立場に!

ユニバーサル社会、情報化社会にふさわしい図書館を目指して

社会福祉学部教授 林 玉子

幼いときから足が不自由な私は、外で遊ぶより家の中に閉じこもり、絵本や父の本棚にある本を意味がわからないまま手当たりしだい読んでいた。その中でも、私の生き方を変えたと言っても過言ではない一冊の本『真の人間たることについて』(ハリー・エマソン・フォスディック著)を、台湾から日本へ来た後も大事に持ち続けていた。繰り返し読んだ文には鉛筆の傍線がまだ見てとれ、若いころに受けた感動がよみがえってくる思いでした。本の内容は、「自分自身の生き方の第一番目に何をおくべきか、それを発見することが大切だ」というもので、「自分の殻を破って自分自身を改革しなさい」と続いている。最後には、「宗教こそは我々が生まれながらにして与えられた恩恵を最大限に発揮して、我々本来の姿になろうと努めるとき希望に満ちた冒険の根底であり、利用し得る力の源泉なのである」と述べていた。今まで私の障害に慣れた人に囲まれて消極的、防御的に暮らしていたが、故郷から離れて一人大学に入って、孤独の恐怖、底知れない不安に襲われて落ち込んでいた私にとって、この本のおかげで、自分の心の扉を開けて、友達に声をかけ、自分で自分を明るく変えていかなければならぬ限り、この窮地から救われる方法はないと教わり、これまでの防御的な態度から積極的な態度へと大転換をとげた。ありのままの自分をさらけ出して解放し、究極の力は何かということを見極めることができた。このように一冊の本との出会いは人間を180度の転換を遂げることができる。

日本に留学に来て、「年を重ねても、心や体が衰えても、障害をもっても、人間らしく豊かに生活できる社会・環境を追求する研究」をライフワークとしている私の本棚には専門書のほかに、人間としての思想、哲学、伝記などに関する本が、所狭しと置かれている。

将来これらの図書を、神栖市にあるバリアフリーデザイン・ユニバーサルデザインを駆使した住宅(長生き人生の家)に持っていき、そこに地域の誰でも気軽に利用できるミニ・ユニバーサル図書館をつくることを夢見ている。

21世紀はユニバーサル社会・情報化社会といわれるよう、意識の改革・仕組みづくりが求められている。静岡県と浜松市は全国に先駆けて、ユニバーサルデザインを県の施策の根底とし、県政の様々な領域でユニバーサルデザインの取り組みを行っている。今では、幾つかの他府県において同様の取り組みが行われ、ユニバーサルデザインの取り組みが行われ、ユニバーサル社会という概念の認識が高まっている。

書物の宝庫でもある図書館の担う役割は、障害の有無、年齢、性別にかかわらず、誰でも平等にアクセスできる図書館を目指して整備しなければならない。例えば、①車いすを使用する人、すべての人が機器(パソコンやソフトウェアなど)による資料探索・情報が容易に入手でき、希望する図書を探し、書架から取り出し、カウンターで借り出す手続きをことなくできる。②視覚障害者には、大活字本や拡大機器の設置、パソコンの音声認識を利用した蔵書検索システム(音声認

識 OPAC) の導入、ボランティアによる朗読など…。
「プログラム・アクセス」の考え方を取り入れ、活字

情報にとどまらず、多様なメディアを提供する情報センターになることが大いに期待される。

本は買いなさい

リハビリテーション学部教授 大城 昌平

私の正月の恒例行事は、元旦に小学5～6年生の担任であった先生のお宅にお邪魔して、一杯飲みながらよもや話をするというものです。しかし今年は残念ながら、先生が肺癌のため入院しておられ、お見舞いにかがうという寂しい年の始まりでした。

先生は若い頃、小説家になることを夢見ておられたようで、大変本好きで、「本ほど安い買い物はない。図書館で借りるのではなく、出来るだけ買って読みなさい。」ということをよくおっしゃいました。小学生のころの私は（今もそうですが）、本を読むよりも体を動かして遊ぶことのほうが好きでしたので、聞き流していましたが、最近、その先生のおっしゃったことがよく分かるようになって来ました。好きな本は座右に置いて、繰り返し読み返すことで、再び味わい、印象に残ったところや感動したところには赤線を引くなどして、自分のものにしなさいということだったのでしよう。

特に、大学の教員となってからは、意識的に本を買うようになりました。講義の中でも、関連した気に入った本のセンテンスをパワーポイントに書き写し、それについて話をすることもしばしばです。私は、講義は一つのテキストから既存の知識を伝達するものではないと考えています。現在、普通・妥当であると考えられている原理や法則も、幾つかの視点からながめる客観的な態度が必要だと思えます。それには、いくつかの本や資料に目を通しておくことが不可欠です。まったく関連の無いような本や資料から、思いがけない発見（気づき）をすることや、物事の関連性を見いだすことができるよう思えます。

私の研究室も次第に本が増えてきています。自分の気に入った、好きな本が書棚にあることはうれしいこ

とです。ヒトはまわりの環境から刺激を受けますので、そのような空間が知的な刺激となるように思います。また、本が身近にあれば必要なときはいつでも取り出すことができますし、自分のものですからどんなに汚しても心配ありません。お菓子のくずが挟まっても、それがそのときどきのクオリアや考えを想起させます。森本哲郎氏は、このような知的な雰囲気のことを「精神の巣作り」と呼んで、自分の世界をそれだけ広く、豊かにすると述べています（『読書の旅』講談社文庫）まさしく、その通りと実感します。

本はそれほど高くない買い物と思いますが、如何でしょうか？専門書でも3千円から4千円ですし、新書などは千円程度です。その金額を、高いとを感じるか安いと感じるかはその人の判断です（学生さんには高いのかもしれませんが）。本は、日常経験できない夢と感動を味わい、新しい知識、新たな研究のヒントなどを仕入れることができます。特に、新書は専門的なことをかいつまんでやさしく解説してくれるので手軽に読め、重宝しています。買った後、失敗したなど思った本や、理解の難しい本もありますが、そのまま書棚に積んでおいて、積読（つんどく）しておけば、そのうちその本が必要になるときもあるかもしれません。

今はインターネットから必要な情報が簡単に入手できます。学生さんのレポートをみても、参考文献には URL アドレスが書いてあることが多いようです。確かに、インターネットからの情報は簡単に入手でき、コピー・アンド・ペーストして、レポートに添付できます。しかし、それでは情報検索と処理の技能は高まるかもしれませんが、新しい発想は生まれてこないのではないかと思います。思考は停止してしまう恐れがあります。現在、私のところには三つの本の執筆依頼が

きています。いずれも原稿用紙に換算すると30～40枚ですが、それを書くために十数冊の本や文献に目を通さなければなりません。一冊の本には、少なくとも十数冊の本や文献のエッセンスが含まれているということになります。そのように考えると、まず幾つかの本に目を通して、それぞれの考えを整理し、それに自分の考えや疑問を付け加え、考えを深めていくという過程が大切であるよう思います。その目を通した幾つかの本が、将来の貴重な財産となり、知識が一冊の本から、次の本、そしてまた次の本へと紡がれていくように思います。特に、専門的情報は決して右から左へと流せばよいものでなく、それを一度頭の中に貯蔵して、咀嚼することが大切だと思います。

今年最初に買った『世界の大学危機』（潮木守一著 中公新書）という本の一文を紹介します。

「大学は学校と違って、学問をいまだ解決されていない問題として、たえず研究されつつあるものとして

扱うところに特色がある。知識をすでにできあがった、完成したものとしてではなく、まだ研究の余地のあるものとして扱えというのが、フンボルト*の理念である。…大学とは、教育と研究の統一体である。」教員と学生が、新たな科学の創造に向かっていく大学であれば、楽しい大学になるでしょう。それには教員がどのような個性的な教育、研究をすすめているかが問われます。それは一冊の本との出会いから始まるのかもしれない。

最後に、図書館報なのに「本は買いなさい」というタイトルは、如何なものかと思われたかもしれません。失礼しました。

*カール・ヴィルヘルム・フォン・フンボルト (Karl Wilhelm Freiherr von Humboldt) : 近代大学の始まりとされる「ベルリン大学」の創立者 (1810年) 教育者、言語学者、哲学者。『世界の大学危機』は本学図書館に所蔵があります。請求記号: 377.2/US/

図書館の中心で本が叫ぶ？

看護学部助教授 宮谷 恵

子どもの頃から本が好きで、本さえ読んでいれば満足でした。家で本ばかり読んでいたので、親に「少しは外で遊べ!」とよく言われました。それくらい本が好きな私にとって、図書館はもちろん大好きな場所でした。初めて図書館というものを知り、そのシステムを知ったとき「好きな本がタダで読み放題なんて、そんな素敵な場所があったんだ」と、図書館のシステムを考えた人に、心から感謝しました。

そういうわけで、昔から図書館に入り浸り、本はたくさん読むことができました。本は私にエンターテイメントとしての満足を与えてくれるだけでなく、特に中学生くらいの頃は（一応自我に目覚めだして、いろいろ悩むことがあった）、図書館に行くと本が「私を読んで」と話しかけてくれるようになり、それを手に取ると、私の悩みへの答えが書いてあるということが、しばしば起こりました。現在に至っては、仕事上などで調べ

たいことがあって図書館に行くと、本が「ここにあるわよ」と話しかけてくれるので、易々と資料を探し出すことができ『本の呼びかけが聞こえる能力』は、なかなか便利です。（もちろんやや誇張して書いてはありますが、私と本の関係は、大体こんな感じです）ただ、インターネットの発達で情報の入手が簡単になり、資料探しに図書館に実際に行く回数は、確かに減ってしまいました。あまり行かないと、本が話しかけてくれなくなりそうな気がするので、がんばって図書館に行く時間を作る努力はしています（特に新刊雑誌が出る頃には）雑誌コーナーの前でぼーっと立っている私を見かけた方は、怪しまず「本の声を聞いているのね」と、温かく見守って下さい。

私の読書のもう一つの特徴は、実は「活字の多いぶ厚い本が読めない」ところにあります。それでどこが読書好き？またはそれでも教員？と言いたい気持ち

はわかりますが、事実なので仕方がありません。(そのため『ハリー・ポッター』が読めない…)でもそのおかげで自分が本好きでも、活字嫌いで本が読めない人の気持ちがわかりますし、「活字が少なく、薄くて、それでいてよくわかるいい本」を探す能力には自信があります。特に人生設計に反して教員というものになってしまった現在(えっ?はい。実はそうだったんです…)、学生の皆様にわかりやすい資料を探すため、この能力も便利です。

考えてみれば、このように本との関係を書いているだけで、自分の半生記を書いているようなことになってしまいました。これからも図書館と「活字が少なく、薄くて、それでいてよくわかるいい本」を愛好して、人生を送っていきたいと思います。

このような私の最近の愛読書は…ここまできたら隠しても仕方ないので思い切って書きますが、「ダイソー文学シリーズ」です。そう、100円ショップのダイソーの本です。実は私は今まで乱読でしたが、日本文学というものをあまり読んでこなかったのです。最

大の原因は「言葉が難しくて(古くて)わからない」というところにありました。でも、ダイソー文学シリーズは、国語の教科書のように、欄外に言葉の解説が付いているのです!これなら私でもOK!というわけで、愛読中です。(しかも、主婦には嬉しいこのお値段!)でもこれだけでは情けないので、とっておきのお薦め本を最後に紹介させて下さい。『世界一小さなアドバイス 幸せへの扉』*アナ・クィンドレン(集英社 893円税別)最近の本は、読み終わってしまうともういい、という気持ちになるものが多いのですが、これは手元にずっと置いて、ときどき読み返したくなる本です。授業や実習に疲れたり(!)、人生に悩んだりしている学生にも教員にも(もちろんその他の人にも)、ぜひ読んで欲しい、本当にすぐ読める、「活字が少なく、薄くて、それでいてよくわかるいい本」です。

*『世界一小さなアドバイス 幸せへの扉』は本学図書館に所蔵があります。請求記号: 934.7/QU/

専攻科最後の年を迎えるにあたって

看護短期大学部助教授 國分真佐代

2006年度は、1980年に開始した聖隷学園浜松衛生短期大学の専攻科助産学特別専攻が27年間という歴史を経て終わりを迎える年であり、2007年4月からは聖隷クリストファー大学看護学部の助産課程での授業が始まることになっています。私は、この大学に赴任してからずっと専攻科に所属させていただき、小さな教室と実習室の中で17人の学生と向い合った毎日を過ごしています。

このコースに入る学生は、ほのぼの気分の抜けない入学式の翌週から突如嵐のように早く進む授業や学内実習に襲われ、9月から本格的に始まった病院実習では分娩10例体験することをめざして自分が眠れなくても食べられなくてもひたすら産婦さんに寄り添って分娩介助を行う実習をし、1月からは助産師国家

試験に向かって猛勉強するという過酷な1年間を切磋琢磨しながら過ごし、卒業時には今までこんなに頑張ったことがないぐらい頑張りましたと胸を張って話してくれることが多いです。しかし、そんな学生さんも最初は戸惑うことばかりです。学生は在学中に1人のお母さまの妊娠中期からお産後1ヶ月までを継続的に担当させて頂くのですが、その妊娠中には、お母さんの体の変化には十分に気をつけていても、自分自身の日々の忙しさからかお母さんの気持ちにまで気を配ることができず、おなかの中の赤ちゃんへの気持ちをどのように言えばよいのかのイメージも湧かなくなって困ってしまうことがよくあります。

そんな時に、私はいつも内心しめしめと思いながら学生さんに『おなかの赤ちゃんとお話しようよ』とい

う本を薦めます。この本は、絵本作家である葉祥明さんが、彼独特のパステルカラーの絵と1滴1滴と心にしみわたる清水のようにやさしい言葉で、赤ちゃんがまだお母さんのおなかにいるころにお母さん・お父さんがどんなことを語りかけてくれて、どんなふうに愛情を注いでくれたかをおぼえていることを伝えてくれます。この絵本を手渡しされた学生さんのほとんどは、絵本のかわいい表紙に魅了されて、私の前ですぐに読み始め、読み終わる頃にはそれまでの疲れ、緊張した顔からやさしく穏やかな笑顔に表情を変えて「先生、この本貸してください。この本お母さんにも見せてあげたい!」と言います。その度に私は「やっぱりこの本を必要としたのは、お母さんよりもまずはあなただったね」と思いながら、いつもこの本のパワーに

敬意を表しています。だって、私がどんなに時間を割いてお母さんの気持ちを大事にしてほしいと話しても、学生はあんな穏やかな笑顔を見せてくれません。この本は、私が何も言わなくても母親の気持ちを大切にするためには、まずは自分自身の気持ちを大切にすることが必要だということを、頭ではなくて心に伝えてくれます。

専攻科の学生さんの忙しさと同じではないかもしれませんが、私達はいつも何かに追われるような忙しい毎日を送っています。だからこそ、私はこれからも自分の奥底にある気持ちに気づかせてくれる本を大切にしていきたいし、これからも助産を志す学生さんにこの本を薦めて、彼女たちの表情が変わる瞬間に出会えるのを楽しみにしていこうと思っています。

お薦めの一冊

看護学部講師 松井 謙次

人はどんな時に本を読むのでしょうか？私が夢見る読書風景は、一人旅で地方の列車に乗り、車窓から人々の暮らしが見える町並みや田園風景が時折視界に入り、また目を下に向けると小さな単行本があり、風景と重ねながら本の世界に入っていく。そんなことを小さな願いとして描いています。

今回、紹介したい本は、「はてしない物語」という本です。この本のことは、知らなくても「ネバーエンディングストーリー」という映画を見たことのある人は多いでしょう。私もいい年（当時、45歳ぐらい？）をして、わくわくしてテレビで放映されたものを見ました。当時、息子（小6）娘（小1）そろってまったく同じ視点にたったの視聴でした。虚無との闘いに白い竜（幸せの竜）に乗って、主人公アトレユと月の君（モンテギント）は、今でも心の中で憧れになっています。実はそれがきっかけになって、「はてしない物語」を手にしました。その本を実際に一読して初めて、その深さを知りました。でも、それぞれのエピソードは不思議に心に残るだけで随分とそのまま自分

なりの意味を与えられずに放置されたままでした。

それがつい最近、どうしてもその不思議な場面に意味を捜し求めて、まるでむさぼるように読みました。その不思議な心に残る場面は、映画ではすべてカットされてしまっていた箇所です。本というものは、読む人の心情によって、「つまらない」「退屈」と感じる場面も心の奥深いところに沁みこんでくることもあります。きっと、私が悲しみに沈み込んでいたためでしょうか？「人は何を求めていきているのだろうか？」「何を求めることによって何を失っていくのだろうか？」「人として決して失ってはいけないもの」次から次にページをめくってしまいました。不覚にもある人の来るのを待っていて喫茶店でその本のページをめくってしまいました。

バスチアン（主人公）が最後の課題として炭鉱の暗い中を木べらで、父の面影のある絵を掘り当てねばならず…まったくの心の闇の中をもがいているような自分の心情がそのまま描かれているようで…。

また、場所もわきまえず、ボロボロと涙がこぼれて

きてしまいました。悲しいとか、つらいとかいった感情ではなく、傷ついた心が「今のままでいいんだよ。君は君のままでいいんだよ」と静かに本が伝えてくれているのが感じられて、きっと癒されていくために自然に涙があふれてしまったのでしょう。

少し遅れて待ち人はやってきました。私の顔を見るなり、「どうしたの?」「ううん…なんでもないよ」と言いながら。50に手の届きそうなおじさんが涙を流していたらやっぱり変ですよ。

そんな訳で今回、ミヒヤエル・エンデ作『はてしな

い物語』をお薦めします。本というのは、全部読もうと思わず、つまらないと思えるところは、飛ばしてしまっても全然構わないと思います。いつか、心にある不思議な箇所がその意味を求めて、どうしてもまた、手に取りたくなることがあります。そのときにまた、その本と出会えばよいのじゃないかな…とっています。でも、きっと泣いてしまうかもと思える本は、やっぱり自分の部屋で読んだほうがいいのかもかもしれませんね。



情報への誘い

図書館には多くの資料（図書・雑誌・視聴覚資料）が所蔵されています。皆さんはどのようにそれらの資料を選択していますか？自分の必要とする情報を、手に取れていますか？今回は情報検索について、簡単にご説明します。

1. 資料の種類と特徴

図書と雑誌は異なった特徴をもつ情報源です。その特徴と違いを知り、上手に使い分けてください。

図書： 評価の定まった知識を系統的に載せています。最新情報を得るには適しません。

雑誌： 最新の知見が掲載されます。専門的・個別的。但し、研究図書のものもあります。

2. 一次資料と二次資料

一次資料とは、雑誌論文などの文献そのものをいいます。二次資料とは、一次資料を探すための資料を指します。索引誌、抄録誌、総目次、総合目録などがあります。

3. 基本的な二次資料の紹介（国内発行・冊子体）

『最新看護索引』『日本看護関係文献集』『医学中央雑誌』があります。いずれも本学図書館に所蔵してありますので、ご利用いただけます。最近ではパソコンからも資料検索が簡単にできます。

4. Web検索の紹介

国内編

医学中央雑誌のWeb版

医中誌で検索できるのは、国内で発行された医学看護学・薬学・歯学などの雑誌文献です。抄録も見ることができます。

NII論文ナビゲーター CiNii

CiNiiでは、学協会が発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索することができます。検索された論文の引用文献情報参照することもできます。

海外編

CINAHL

主として米英の看護・保健・生物医学関連の文献を収録対象とします。雑誌論文以外にも図書・学位論文・業務基準・パンフレットなど広く対象とします。

PubMed

アメリカ国立医学図書館（NLM）のデータベースで、Web上で無料公開されているものです。世界の医学・看護学・歯学のほか関連分野の雑誌論文を対象とする索引誌です。MESHというシソーラスをもちます。検索では自然語から自動的にMESHも含めて検索するオートマッピング機能があります。

- *いずれのサイトも本学図書館ホームページのリンク集にありますので、ご利用ください。
- *上記の利用について不明な点があれば、お気軽に図書館カウンターまでお尋ねください。

貸出統計

今年は学生の皆さんを対象に、どんな一般図書が借りられているのか統計を出してみました。
一般図書とは、看護・社会福祉・リハビリテーション・医学などその周辺分野の図書以外の文学や語学など幅広い分野を指しています。

対象期間： 2005年4月1日～2006年2月28日

対象者： 学部学生の貸出冊数の多い一般図書と貸出された人数

ベストリーダー3位

- 1位 『魔法使いハウルと費の悪魔』 15人
- 2位 『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』 8人
- 3位 『海辺のカフカ』 8人

皆さんの予想はいかがでしたか？予想通りでしたか？それとも意外な結果でしたか？
大学図書館にはこのような図書も所蔵されています。是非一度手にとって、読んでみたらいかがでしょうか？

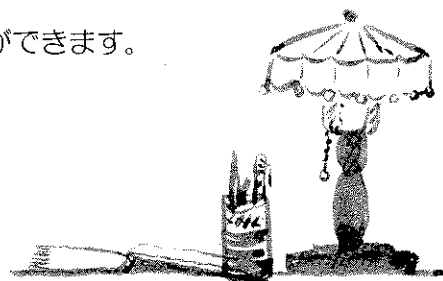
教職員寄贈図書

- 小川 恵子（リハビリテーション学部長） 『地域作業療法学』
- 小川 恵子（リハビリテーション学部長） 『高齢期作業療法学』（韓国語版）

そのほか、外部団体や匿名希望などにより多数の図書をご寄贈いただきました。
有難うございました。

◆◆◆ 図書館からのお知らせ ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ◇図書館のホームページのトップにはその時々で皆さんにお知らせしたいことなど、新しい情報を中心にアップしていますので、ぜひご覧ください。
- ◇今年から第二図書館の利用が変わります。閲覧室が学習室へと変更されます。
ぜひご利用ください。
- ◇第二会館の図書も閲覧できます。貸出はしていませんが、複写ができます。
複写申し込みのノートに記帳してから、複写してください。



図書館報 第4号／発行・聖隷クリストファー大学図書館／2006年3月1日
〒433-8558 静岡県浜松市三方原町 3453／TEL：053-439-1416／FAX：053-414-1146
E-mail：cl-library@admin.seirei.ac.jp URL：http://collib.seirei.ac.jp/
